

041 市川喜太郎家文書目録と目録作成について

1 須坂市豊丘町の市川喜太郎家文書は、寛永12年(1635)7月の灰野村地詰帳を初出とする近世から近代・現代にわたる広範囲な史料群として存在する。幕末から明治期に灰野村・園里村内の重鎮として活躍された市川佐次右衛門関係史料が大きなウェイトを占めているとあってよい。幕末期の名主佐次右衛門は、明治期には戸長として登場する。それら役職に関わって作成された史料によって、灰野村や園里村の歴史的な姿を浮かび上がらせることが可能となろう。

貴重な史料群を遺し保管され、『須坂市誌』編さんのためにご提供いただいた市川家に感謝とお礼を申し上げたい。

2 本市川家文書をみると、近世においては須坂藩領関係文書として、名寄帳・新田改帳、租税関係の先納取調帳・御飯米荏大豆帳・御未進小物取集帳、さらには献上金・御触書覚帳など藩の苦しい財政を窺わせる史料群が登場する。とともに、文化文政期以降には典籍の数がふえてくるのも特徴的である。

明治期以降では、地租改正関係史料のほか新溜池開発や灰野牛関係史料が目につく。さらに時代がたつと北信産牛馬組合史料が増えてくるところに特徴の一端がみられる。

3 これらの市川家史料を「市川喜太郎家文書目録」として文書目録を作成した。『須坂地域の史料目録』の連番整理番号「041」(41番目)に位置付け、史料番号は、「041 - A - 1」から開始して整理ラベルを貼付した。

文書目録の分類項目と史料点数等は次のとおりである。

分類項目	史料番号	史料点数	箱数
A I 江戸期 I	424	433	4
A II 江戸期 II	478	515	3
B I 明治期 I	401	417	4
B II 明治期 II	653	680	4
C I 大正昭和期 I	137	144	1 (C II 含)
C II 大正昭和期 II	105	110	
D 典籍	293	309	4
E 絵図・写真等	99	119	1
合計	2590	2727	21

総体としては、史料番号が2590、史料番号中に「041 - B - 75 - ②」のように挿入した史料番号(②などが付いている枝番号)を加算すると、史料総点数では2727点となっている。

4 本史料目録が市川家・豊丘町区民をはじめ多数の須坂市民ほか関心を持たれている地域史研究者によって活用されることを願ってやまない。加えて、区民による新たな歴史叙述・編さんの基礎史料として大いに活用されることを期待したい。

- 5 史料目録の作成にあたっては、史料活用の便を考慮して、次のようにした。
- (1) 史料名は原則として原史料中に記載された表題をそのまま記載した。
 - (2) 「覚」のみで内容未記載の史料については、「覚（山年貢請取）」のように内容説明を記載したものもある。
 - (3) 史料を数点まとめて整理した場合は、備考欄に「便宜括り」または「便宜袋入り」と記載しておいた。
- 6 本史料目録は、市川家のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

小林 裕 井上光由 丸山文雄 涌井二夫
 勝山一男 竹内正勝 小林謙三

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2011 年 5 月 25 日

須坂市誌編さん室

○追加史料目録分を含めたまとめ

分類項目	史料番号	史料点数	箱数
F (追加史料分)	199	206	2
A～E (史料目録分)	2590	2728	21
合 計	2789	2934	23